



和歌山駅まち空間活性化基本構想

概要版



1. 基本構想策定の背景

和歌山駅まち空間の活性化は、駅周辺の抱える課題の解決だけでなく、都市全体に多面的な効果を発現させる重要な機会であり、そのために多様な主体が連携した一体的な検討プロセスやデザインが求められています。時代の流れに柔軟に対応するためにも、和歌山駅そのものの魅力や機能強化に加え、和歌山駅とまちとの関係性を考慮した一体的な空間づくりが必要とされています。

2. 基本構想の目的

基本構想では、「①まちとのつながりの強化」「②暮らしの質の向上」「③和歌山の魅力づくり」の3つの視点から、駅まち空間整備の目指すべきビジョンを示すとともに、駅を中心とした「まち」と「ひと」の多角的な連携や整備方針の考え方について定め、また、目標を達成するための具体的な方策イメージを共有することで、関係者が一丸となって駅まち空間活性化に取り組むための指針となるものです。



3. 基本構想の対象範囲

① 駅まち空間エリア

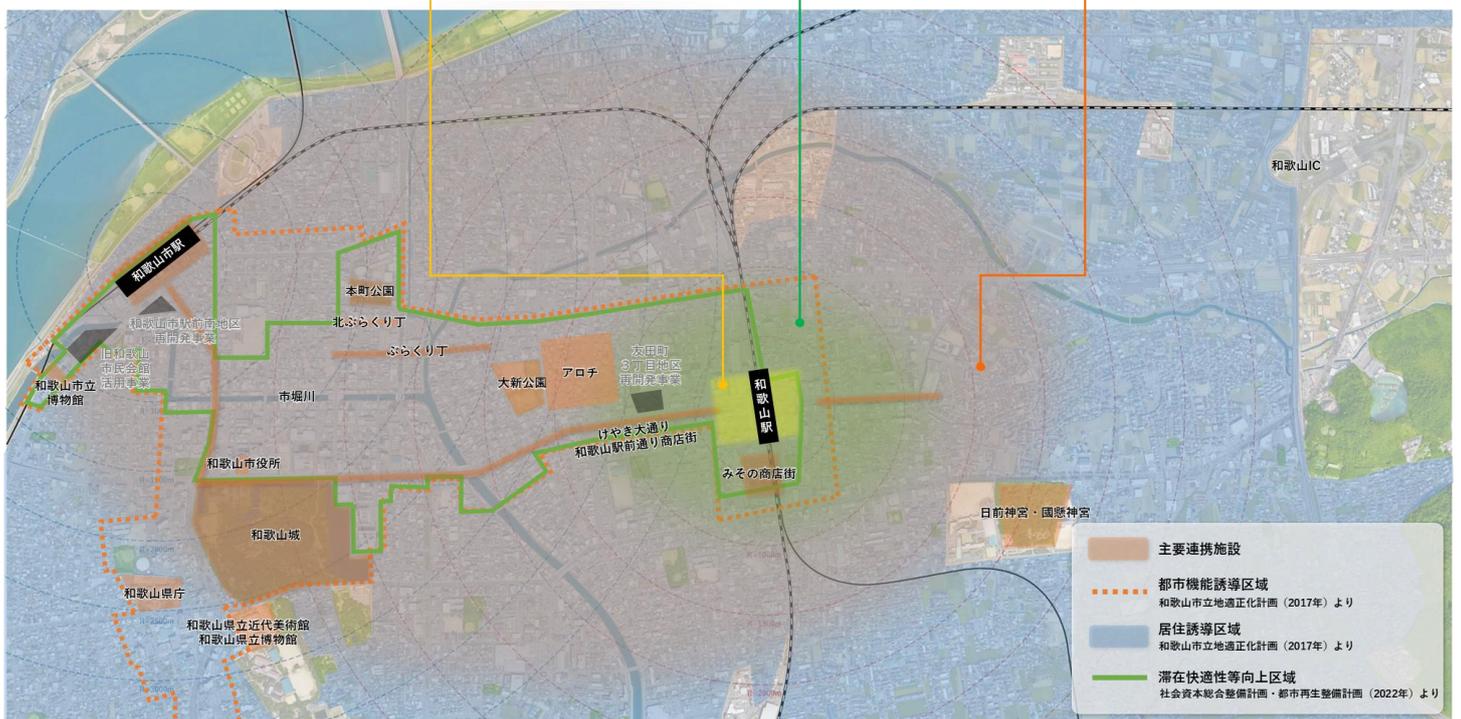
「基本構想の目的」を達成するために、駅まち空間として活性化推進を図っていくエリア（和歌山駅舎・西口／東口駅前広場、和歌山駅前交差点、わかちか広場等）

② 駅まち空間連携エリア

駅まち空間エリアでの整備と連携が必要なエリア（みその商店街、和歌山駅前通商店街、けやき大通り、友田町3丁目地区再開発事業、駅東エリア等）

③ 広域連携エリア

波及効果の最大化や市街地での持続的なまちづくりの実現を目指し、駅まち空間エリアと積極的に連携を図っていくエリア（ぶらくり丁、和歌山市駅、和歌山城等）



4. 基本構想策定の位置付け

本構想は、県の「和歌山県都市計画区域マスタープラン」「和歌山県地域公共交通計画」や、市の「和歌山市長期総合計画」「和歌山市都市計画マスタープラン」「和歌山市立地適正化計画」等の上位計画に記載されている和歌山駅周辺の整備方針の内容に即し、それらを具体化するものです。市民・民間事業者・行政等が連携して、各種都市計画やまちづくり事業を实践する際に、この基本構想が重要な指針となります。

5. 和歌山駅周辺の課題とポテンシャル

和歌山駅周辺の利用者の方々を中心にアンケート調査を実施し、得られた情報を課題・ニーズの把握のために活用しています。

和歌山駅周辺を利用した目的はなんですか？	<input type="checkbox"/> 「駅周辺での買い物・飲食」という回答が約4割 <input type="checkbox"/> 「家族などの送迎」をはじめとした鉄道の利用が伴う回答が約半数
和歌山駅周辺で魅力的に感じるものは何ですか？	<input type="checkbox"/> 「商業施設」という回答が約4割、「飲食店」を含むと6割近い結果 <input type="checkbox"/> 一方で、魅力的に感じるものは「特になし」という回答が約8%
和歌山駅周辺の機能で課題に感じることは何ですか？	<input type="checkbox"/> 「駅前ロータリーが混雑している」「ゆっくりできる広場空間がない」「東西の連絡通路が不足している」という回答がやや多い <input type="checkbox"/> 玄関口としての顔、駅周辺のにぎわい、子供の居場所、駐輪機能等の交通利便性、美観に関する意見も見られた
和歌山駅周辺で不足していると感じる施設は何ですか？	<input type="checkbox"/> 〇くつろぐことできる居心地の良い場所としての機能がニーズとして多く見られた <input type="checkbox"/> 〇自由意見として観光客向けの施設や、子供や学生などの若者世代を対象とした施設について不足しているという内容が見られた
和歌山駅周辺に新たに造ってほしい、改修してほしい施設は何ですか？	<input type="checkbox"/> 「商業施設」「駐車場・駐輪場」としての回答が比較的多く見られた <input type="checkbox"/> 〇歩行者空間においては東西連絡のアクセス性の向上や、滞留できる広場空間などの施設に関する回答が比較的多く見られた <input type="checkbox"/> 〇自由意見としては、駅周辺に限らずゆき大通りの利活用や公共交通機能の充実といった幅広い意見が見られた

6. 和歌山駅まち空間のコンセプト

“くくる” (結ぶ)



“くくる！わえきまち”

和歌山駅周辺を
紀伊半島を巡る
観光滞在拠点に

観光拠点としての
駅周辺機能の強化

駅と各名所をくくる
広域交通ネットワークの連携

“聖地リゾート”の玄関口・
観光滞在拠点として機能

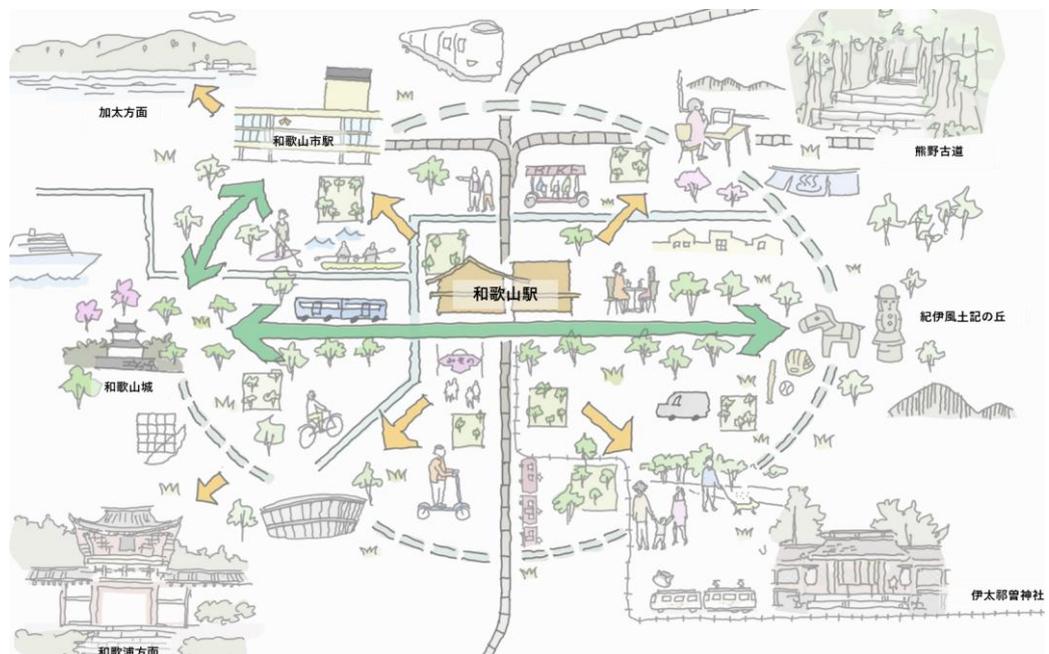
まちなかの魅力を
育て、つなげる
市内回遊拠点に

市内交通ネットワークの再編

乗換利便性が高く快適な
滞在機能を有した広場や公園

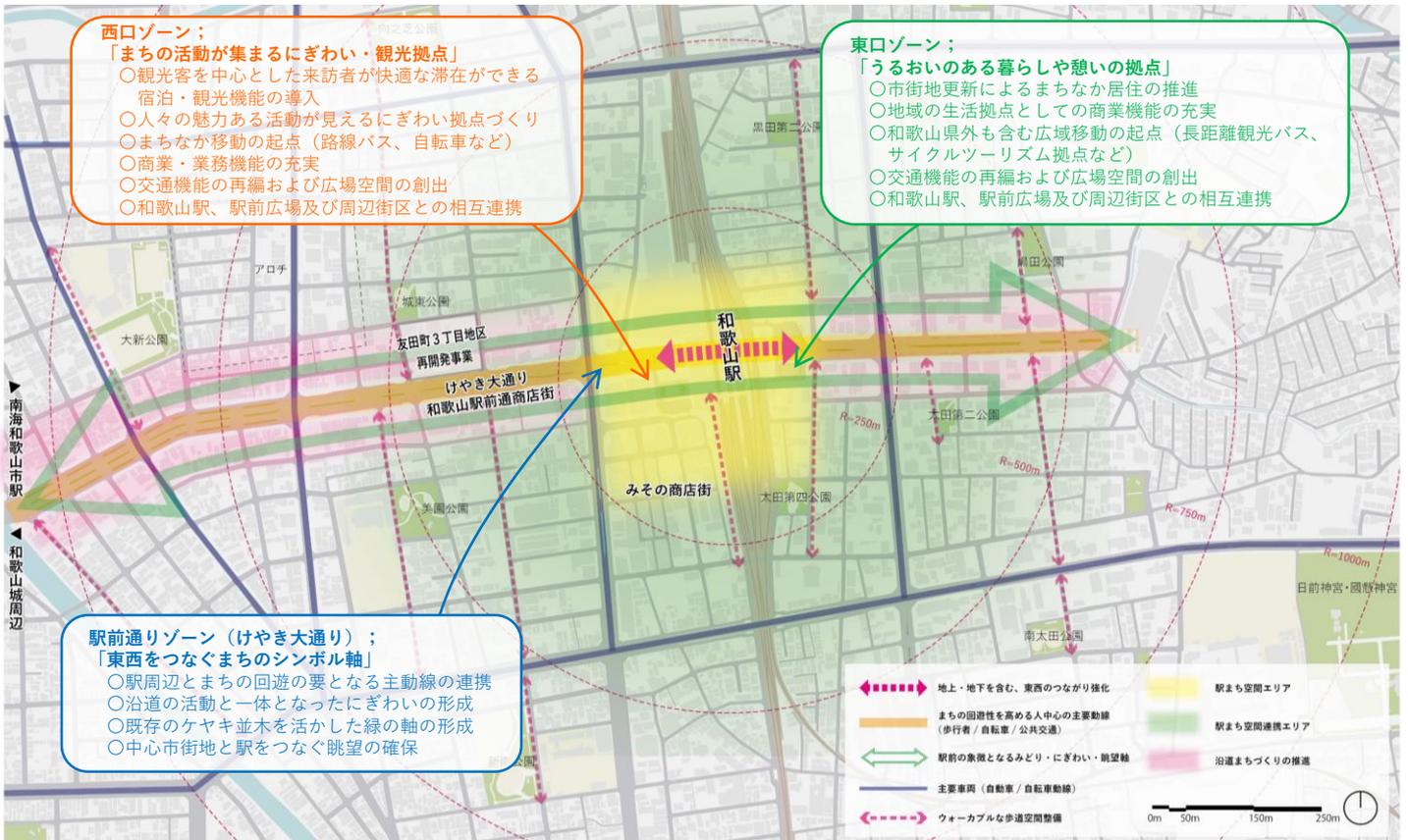
まちづくり団体や組織の
つながりを生む交流拠点

まちの魅力を国内外にアピール
するシティプロモーションの強化



7. まちづくり方針図

和歌山駅周辺およびけやき大通り等の主要道路を含む範囲について、3つのゾーン（西口ゾーン・東口ゾーン・駅前通りゾーン）を設定し、和歌山駅まち空間活性化に向けたまちづくりの方針を示します。



8. 基本方針3つの「くるる」

和歌山駅まち空間活性化のためには、和歌山駅と、様々な事業や活動が展開される既存の「まち」や、安心・安全な市民の「暮らし」、和歌山県/市内の観光・文化・産業や多様なプレイヤーといった「魅力」との連携の視点が重要になります。基本構想では、和歌山駅まち空間活性化に向けた3つの「くるる」を基本方針として掲げます。

基本方針を推進していく上では、個々の方針で完結することなく、デザインの視点によって3つの「くるる」を互いにつむぎ、より魅力的で、領域を越えて一体感のある和歌山駅まち空間を目指します。



● 駅と「まち」を“くくる”

- ① まちなかから駅へ、駅からまちなかへの回遊の動脈となる交通システム（定時制の高い次世代モビリティ等）の導入可能性の検討を行い、拠点エリア間の連携強化を目指します
- ② 快適な歩道空間や自転車等の通行空間の整備、シェアサイクルの利便性向上等により、まちなかの回遊性向上を目指します
- ③ まちの玄関口である和歌山駅に、まちづくり団体や組織のつながりを生むプラットフォームを構築し、地域の様々な活動や情報を可視化・発信することで、担い手どうしのネットワークを広げながら、更なるまちづくりへの気運醸成を図ります



次世代モビリティの導入イメージ



自転車・歩行者ネットワーク再編のイメージ

● 駅と「暮らし」を“くくる”

- ① まちなかでの「暮らし」をより魅力的で快適なものにするために、拠点性・利便性の向上を図る取組と和歌山市ならではの魅力・価値の創出・発信を通じて、まちなか居住の推進を目指します
- ② 和歌山駅の防災上の位置づけについて検討を行い、既存の防災計画と一体的な対策を進めることで、和歌山市における防災拠点としての整備を目指します
- ③ 未来での柔軟な対応が可能なスマートシティ化の整備を進めることで、都市課題の解決や、まちなかでの暮らしの利便性向上、豊かな生活の実現を目指します



みその商店街でのマルシェイベント（和歌山市）



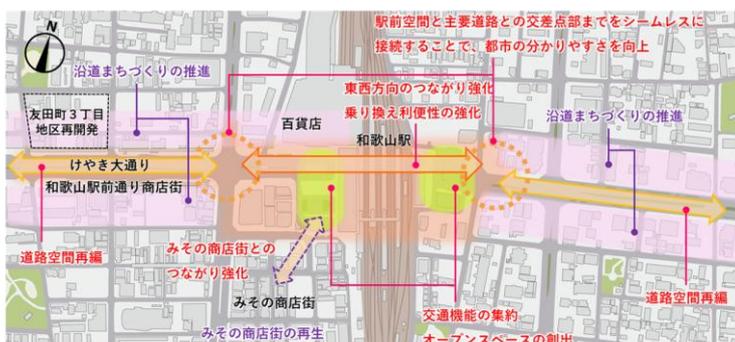
防災トイレの導入（和歌山市）



自動運転車両の導入実験（和歌山市）

● 駅と「魅力」を“くくる”

- ① 和歌山駅周辺の観光拠点化や来訪者に優しい駅づくり、駅自体が目的地となる空間・機能の導入により、和歌山県内外のつながりの強化を目指します
- ② 東西方向のつながりの強化やオープンスペースの創出、道路空間の再編等を通じて、和歌山県の顔となる「玄関口」として相応しい駅まち空間形成を目指します
- ③ 利用者の視点や広場空間を活用する主体の視点に立った整備を行い、多様なプレイヤーや担い手を受け入れることができるにぎわいのある和歌山駅まち空間を目指します



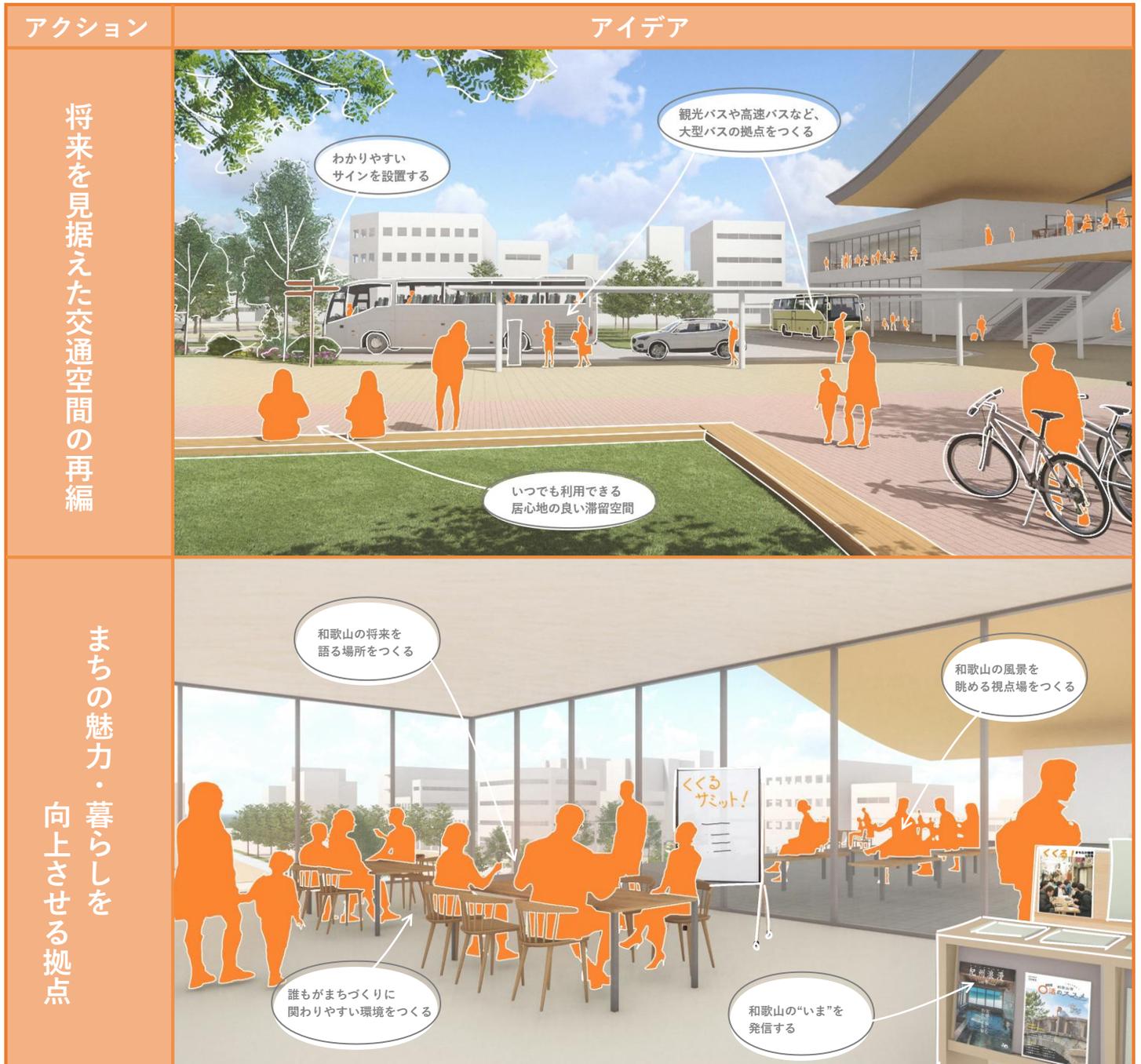
和歌山駅周辺の整備方針イメージ



駅前広場での多様な活用のイメージ

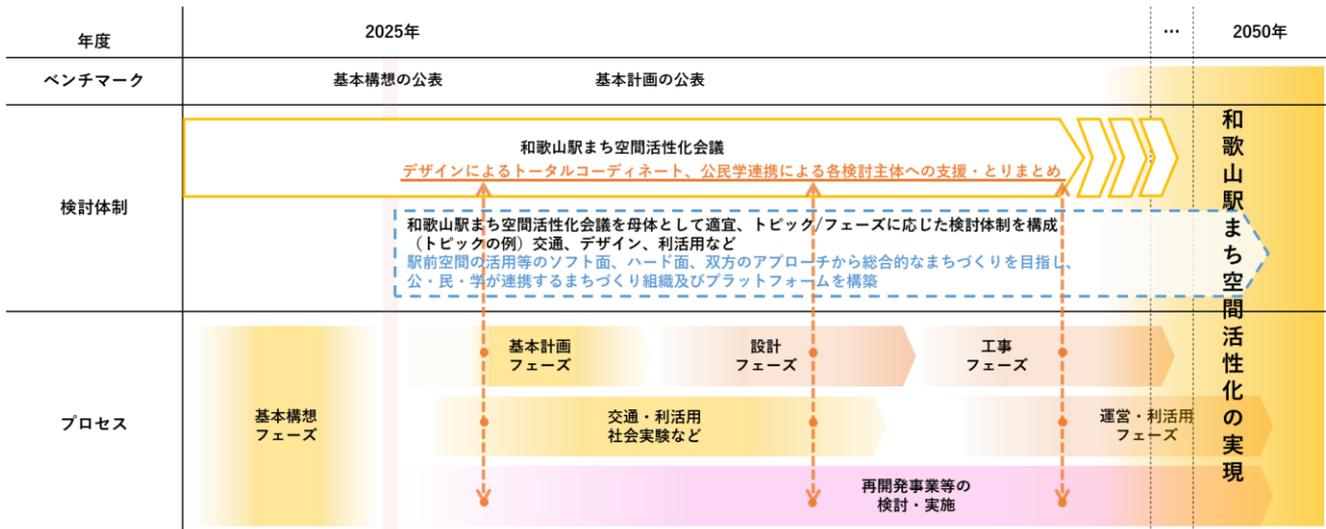
9. 和歌山駅まち空間を形づくる5つのアクションとアイデア

アクション	アイデア
<p>人々の居場所や活動の 舞台となる空間の創出</p>	<p>イベントが開催できる広場は災害時には防災拠点になる</p> <p>WiFi環境を整える</p> <p>子ども遊べる公園のような空間をつくる</p> <p>災害時の情報発信も担うサインを設置する</p> <p>一人でも休憩できる心地よい居場所をつくる</p> <p>活動を支えるコンセントなどの設備を用意する</p>
<p>まちと繋がる空間構成</p>	<p>歩行者や自転車中心の街路空間を整備する</p> <p>建物低層部や屋外空間ににぎわいをつくる</p> <p>低未利用地や老朽化した建物を活用する</p> <p>駅とまちをスムーズにつなぎ連続性を高める</p>
<p>和歌山の玄関口の顔づくり</p>	<p>既存の樹木を生かして緑あふれる空間にする</p> <p>和歌山の玄関口に相応しい正面性をつくる</p> <p>けやき大通りの中央を定時性の高いモビリティが走行する</p> <p>歩きやすい街路空間を整備する</p> <p>自転車でのアクセス性を向上させる</p>



10. 今後の進め方

和歌山駅まち空間活性化会議を中心とした検討体制のもと、和歌山駅まち空間活性化に関して継続的に検討を進めます。



※社会経済情勢の変化や各種検討状況に応じて、変更となる可能性があります。

図中の“2050年”は、個々の施設整備に要する期間を表すものではなく、再整備された施設等が運営・利活用されることで、駅まち空間の一体的な活性化が図られる目標時期を表しています。



発行日：令和7年7月

発行者：和歌山駅まち空間活性化会議

